報道関係者各位　　2009年1月18日

≪第三報≫

セーブ・ザ・チルドレン　ハイチ地震緊急支援活動

支援物資配布活動中

心配される子どもたちの健康危機

社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

1月13日（日本時間）に起ったハイチ地震から5日目。震災直後から、現地で緊急支援活動を行っている、子ども支援の国際NGOセーブ・ザ・チルドレン（SC）は、現地被災者とともに希望を持って災害に立ちむかい引き続き支援活動を展開しています。

Win McNamee/ Getty Images for Save the Children

SC は、子どもたちに食糧と水、そして医薬品を供給していますが、状況は差し迫っており、時間との闘いです。17日、ドミニカ共和国にあるSCの倉庫から、20フィートのコンテナがポルトープランスにある病院と2つの児童養護施設に運ばれました。これら食糧、水、衛生用品（消毒アルコール、石鹸、タオル、お尻拭き、生理用ナプキン、シャンプー、トイレットペーパー、歯ブラシ、歯磨き、おむつ）は、約2000人に提供される予定で、本日、さらに15トンの医薬品が届けられます。SCは、ハイチでおよそ25年間の活動実績があり、緊急支援はハイチの政府、援助機関、地元のコミュニティの協力のもとに行われています。厳しい状況下で活動を続ける現場のＳＣスタッフは、悲惨な被災によって日々悪化する状況に立ちむかう子どもたちとその家族の並はずれた忍耐力と力強さに勇気づけられています。私たちは、助けを必要としている被災者のために、望みを持って支援活動を続けていきます。

【現場スタッフの声】

震災の影響を受けた子どもたちとその家族の健康状態の調査のために、キャンプを回っているキャスリン・ボールズによると、清潔な水の絶対的不足と衛生状態の悪化がハイチの子どもたちの健康に及ぼす危険が懸念されます。

「きれいな水が非常に不足しています。仮設キャンプにいる家族が、赤ちゃんのために汚染された水を使うことで、幼児が下痢になり、命を落とすこともあります。人々は、衛生システムの整っていない、混雑する避難場所に寄り集まっており、このような状況下では、だれでもが伝染病の危険にさらされますが、最も弱い立場にあるのは、5歳未満の子どもたちなのです。」このような状況を受け、ＳＣでは特にキャンプで出産した女性には乳幼児に母乳を与えることを推奨しています。

また、「負傷者は病院の外まであふれだし、病院は負傷者を受け入れているものの、設備もスタッフも不足している状態です」と報告しています。SCは、20台の車と27台のオートバイを使って、ポルトープランスの14の病院と医療クリニックに医薬品の配布をしており、今後キャンプや移動クリニックでの治療の援助のために、アメリカから5人の内科医が現地に入る予定です。

SCは、1978年よりハイチで活動を行っており、2008年の8月から9月にかけて発生したハリケーンによる自然災害の際にも迅速に緊急支援活動を行いました。

■セーブ・ザ・チルドレン

1919年に設立した子ども支援NGO。数少ない団体にだけ認められた、国連経済社会理事会（UN ECOSOC）のNGO最高資格である総合諮問資格(General Consultative Status)を取得しています。年間予算は1,000億円を超え、現在、世界で29ヵ国のそれぞれ独立した組織が、パートナーを組み、世界最大のネットワークを活かして、120カ国以上で活動を展開しています。90年渡る活動は、世界のNGOの代表格として各国政府からもその重要性を認められています。